

<p><b>【平成24年度活動名】</b>          曾根干潟における貴重種の特特定と保護・保全活動</p>
<p><b>【団体概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 団体名: 自然環境定量評価研究会</li> <li>② 設立年月日: 平成 11 年 3 月 20 日</li> <li>③ 会員数: 16 人</li> <li>④ 団体の設立目的: 北九州の自然を豊かにするため、生物の自然環境を定量的に評価し自然環境の保全と創造に資する研究と保全活動を行う。</li> </ul>
<p><b>【活動実績(これまでの主な活動内容)】</b></p> <p>河口干潟生態系における環境評価手法の研究(平成12年～平成23年)を実施し、かこの巣穴を空中写真から判読し、広範囲におけるカニの生息量を定量的に計測する手法を開発した。また、ハヤブサの人工巣穴の造成(平成12年～平成23年)を行い、都市において減少する猛禽類であるハヤブサの生息環境を保全する手法を開発した。</p>
<p><b>【平成24年度活動内容】</b></p> <p>&lt;活動目的&gt;</p> <p>曾根干潟は、100万都市北九州市に位置する唯一の広大な干潟である。この干潟には、カブトガニやシオマネキ、ウミナナなどの絶滅危惧種や貴重種が生存していると言われている。本活動は、絶滅危惧種や貴重種に着目して、それらの生物を保護・保全するための方法を究明することを目的とする。また、生物の生息環境に影響を及ぼすであろう底質や湧水の有無などに着目して、生物の種数・個体数と生息環境との関係を把握する。</p> <p>&lt;活動内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 曾根干潟に生息する絶滅危惧種や貴重種の有無や生息場所、および生息量を把握するために、9月7日、8日に現地調査を行った。</li> <li>(2) 過去の変化を把握するために既存の調査資料を収集し、今回の結果と比較した。</li> </ul> <p>&lt;活動成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 目視調査で確認された重要な種は、22種であった。4区域すべてで確認された重要な種は、ウミナナとヘナタリ、カブトガニ、トビハゼであった。</li> <li>(2) コドラート調査によって得られた巻き貝の分布がえられ、次の傾向が見られた。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・大野川河口やその左岸側のヨシ原においては、フトヘナタリが優占種として生息していた。また、干潟の中央部付近の地盤高がTP.0m～1.0mのところでは、ヘナタリが9割程度占めていた。</li> <li>・貫川河口付近と間島の周辺では、ウミナナが優占種であった。</li> </ul> </li> <li>(3) 底質環境は、間島北側の測点で中央粒径が激しく変動する以外は経年的にそれほどの変化は見られない。底生動物の種類数や個体数、湿重量に関しては、データ数が少なく確かなことは言えないが、種類数は間島北側の測点で減少傾向が見られ、個体数と湿重量ではすべての測点で減少傾向であった。</li> <li>(4) 今回の成果を踏まえ、曾根干潟の生きものに関して一般市民向けの「曾根干潟で見られる生き物の名前と見分け方-かんたんガイドブック」を作成した。</li> </ul>
<p><b>【今後の活動予定・団体のPR】</b></p> <p>上述のガイドブックを一般市民に広く配布し、曾根干潟における貴重な自然環境を保全する活動を進めていきたい。特に、地元の小学校と協力して小学生たちに曾根干潟の生物の多様性や自然環境の重要性を共に勉強する活動を行いたい。</p>



調査前ミーティング



湧水調査（設置）



湧水調査（設置時）



底生生物調査



芦原生物調査



底質調査